横浜市
受付
27.6.25
市民局市民活動支援課

Y78

平成26年度事業報告書

（特定非営利活動に係る事業報告）

特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会

1　事業の総括

ミンダナオ島への入植政策等、過去1世紀余りの歴史の中で文化的少数派となり、さらに、生活基盤であった熱帯林消滅で、経済的にも窮状にあった先住民族ビラーン、ティボリ、マノボ及び沿岸部のムスリムの人びとを、医療・教育・農村開発・環境保全・女性自立の5分野の事業により支える活動は、本年7月、20年目に入ります。節目の年を迎えて、より確かな実りを結ぶことができるように、以下、平成26年度の事業をご報告し、会員の皆様とともに、成果と課題の確認をさせていただきたいと思います。

なお、この1年間に直面した最大の課題、急速に進む円安については、会員、市民のご協力により、活動の質量をあまり落とさずに、事業年度を終了できたことを感謝申しあげます。

1）保健・医療

① CMIPと協働の事業：

前年度に続き、歯磨き励行や、野菜・薬草畑作りなど、治療より予防に力点を置いた活動や、健康保険の加入手続き指導が、ヘルス担当ジョジョさんのもとで進められた。また、保険加入推進活動を通じて、子どもの医療費が無料となる先住民族の貧困家庭対象の4P's政策がかなり普及していることが分かった。

「治療より予防を」の支援方針は軌道に乗ってきたが、ヘルス担当者だけでは、全50地区をカバーできないため、アトモロックなどCMIP校がある5村については、前年に続き、担当教師に特別手当を支給して、週末の家庭訪問によるトイレ設置、薬草・野菜栽培、歯磨き奨励など、地域の健康管理役を担ってもらった。また、学校がない地区は、「治療より予防」活動を担う母親クラブの育成に努めた。

政府の貧困家庭に対する医療政策が少しずつ改善され、また、各地域での「治療より予防」の活動が定着してきたことで、医薬品支援の減額をはじめとして医療支援の規模縮小への道筋が見えてきた。但し、年度終わりの3月に、スプ地区でインフルエンザが大流行し、一時的に支援患者数が増えて、まだ、その成果を数値で示すことはできていない。

② PIHSと協働の事業：

助成金で人件費や自主財源事業資材費などを賄ってきたPIHSとの協働事業13年目の平成26年度は、当団体の自己資金（医療支援会費）のみを充当し、これまでのNPO法人WE21ジャパンみどりの助成で実施してきた「ヘルス活動の自主財源を創出する事業」を維持、評価する活動に限定した。

ただし、保健ボランティアの地域定着を目的として数年前に始めた、その子どもたち(小学生とハイスクール生)への奨学金支援は継続した。特にハイスクール奨学生は、地域の青少年を組織し、子どもの権利や性教育を学ぶ研修を主宰するなど活発に活動し、将来の地域医療の担い手として期待できる成果を上げた。

自主財源事業は、パリンバン町バロンギス村の耕運機貸出事業や、マラパタン町トゥヤン村のMULANのバニグ編みを除いて、収益は少なく、特に、貧しいビラーン民族が多く、母親の識字教室の継続が必要なアラベル町カワスのブラコン村では、ヤシ屋根材以外の自主財源開拓のニーズが大きいことが分かった。

2）教育・人材育成

① CMIPと協働の奨学金支援とCMIP運営5小学校の給食支援：

奨学生の指導、当団体への現況報告を担うCMIPの担当者、特にバイクで、山間部の10校以上の公立学校を訪問できる男性スタッフに、特別手当を出したことで、奨学生モニター活動が改善され、26年度の中退奨学生の数はゼロだった。保護者の責任自覚を目的に、寮を廃止したカレッジ生も、それぞれの経済的試練を乗り越えて、3月には3名が卒業できた。

公立小学校が遠くて、初等教育を受けられなかったマラパタン町のビラーンの村ナブルやバンリ地区に、CMIPの学校が開設されて、それぞれ、4年目、2年目を迎えた。山道を1時間以上かけて通う児童の学業継続に給食支援は必須で、26年度も小学校5校における、一食5ペソ(約13円)、週3回の給食プログラム支えた。たとえ雑炊でも、お米が食べられる魅力は、児童の学業継続の力になっていると現場の教師たちの給食支援への評価、継続支援への期待は大きい。

② レイクセブ町のティボリ民族教育支援事業：

33年間の活動を終えたJOFPAの継続支援希望会員約160名とともに、学校法人SCMSIの運営支援を引き継いで2年目、改めて、周辺の先住民族の村に比べて、レイクセブ町は公立小学校の数も多く、初等教育普及率が極めて高いことが分かったが、一方で、伝統文化継承を理念に掲げ、地域社会に貢献する子どもを育てる私立学校SCMSI存続の意義をも確認できて、引き続きその学校運営経費の一部を支援し、約90名の里子を含むティボリの子どもたちの教育機会を支えた。

③ 看護師をめざす学生対象のJOFPA基金：

JOFPA基金運用2年目の平成26年度は、PIHSが目指す住民主導の健康な村作りを担う人材育成のため、PIHS推薦の2名のムスリム学生を支援した。

年度終わりには、奨学金を補う保護者の経済力不足が判明、一名は1教科の単位を落とすなど学力問題も浮上したが、奨学生の意欲、PIHSの看護師のニーズを確認した結果、継続支援を決めて、JOFPA基金増額のほか、公的奨学金受給の可能性も検討した。

④ 医療でも触れたが、教育面でも、4P's、及び、先住民族国家委員会（NCIP）の奨学金など、貧しい先住民族への政策改善が確認できた。当団体の次年度教育支援事業の参考にしたい。

3）環境保全・農村開発の活動

① PFPと協働で実施したダグマ山系南西端のレイクセブ町の3件の事業について：

平成14年にPFPが当団体のパートナーに加わって以降に実施した助成金による持続可能な森林農業（アグロフォレストリー）事業は計18件であるが、3年前のセブ湖の島ティバウバウ以来、26年度の3件を含めて、ダグマ山系南端のレイクセブ町での事業が続いている。これは大農園開発で土地を失った隣接町村からのティボリ民族の流入もあり、山腹斜面での焼き畑や耕地化が止まず、希少な熱帯の生態系壊滅を恐れた町が、PFPに協力を依頼したもので、町の環境及び農業担当職員、PFP、当団体3者の協働事業となった。

なお、3件のうち、2件、タクネル及びタシマン・バランガイの事業では、森との共存を教育理念に掲げる先住民族学校ILSの子どもたちも活動に参加した。長期の見守りが必須の持続可能な森林農業、アグロフォレストリー活動へのILS参加は心強い。

② もと奨学生が組織した住民組合BOSDAと協働のボルール村小規模アグロフォレストリー：

平成22年度にも、CMIPと協働でココヤシ等の苗木配布による小規模収入向上事業を実施したボルール村で、26年度には、CMIPとHANDSが育てた農業専門家を含む3人の元奨学生が組織したBOSDAと協働して苗木配布や研修事業を実施した（22年度、26年度ともにWE21ジャパンみどり助成）。研修及び苗木育成、移植の活動は成果を上げたが、資金管理面での課題が多かった。これは主に当団体やBOSDAリーダーの指導力不足によるもので、今後のモニター継続と成果報告を条件に、助成機関の了解をいただいた。

4）女性自立支援の活動

① COWHED 支援：長年マネージャーをしていたジェマさんから、ジェナリンさんに代わったティボリの女性組合 COWHED は、ジェマさんのリーダーシップで築いた基礎の上に、産業貿易省 DTI や国際労働機関 ILO 支援の研修や施設拡充など、ジェナリンさんのもとでも、一層、活動の幅が広がり、ハンディクラフトの国内市場も堅調（1 月末のイスラム過激派に関わる紛争で、2－3 月は観光客が激減）だった。

過去 14 年間、当団体は、研修、施設建設、スタッフ手当など各種支援で COWHED を支えたが、マネージャーもビサヤ人のメルチさん、ジェマさんから、ティボリ民族のジェナリンさんに代わり、また、ビサヤ人のピポットさん（1 年前に逝去）が一手に引き受けていたティナラク織縫製も、現在はフロリタさんほか、組合員 3 名が担うようになり、ティボリ人によるティボリ女性の組合として実績を残した 1 年といえる。当団体もハンディクラフトを購入し、日本の顧客の助言を伝える等の品質向上支援に限定できた。

② ナバルタビ織継承支援：NTP（ﾏﾈｰｼﾞｬｰ・スヌーリア）と協働の若手育成事業を継続支援した結果、講師役の中堅織手の生活が保障され、織りに専心できて、当団体も顧客の要望に応えることができた。

5）広報・啓発の活動（国内の活動）と事務局運営

① 事務局体制の整備：10 月に赴任の 1 名を加えて、非専従スタッフが 3 名となり、また、うち 1 名（藤川）が事務局長職に就いたことで、イベント参加や報告会開催などの広報活動体制が整い、特に初参加の平成 27 年 2 月のよこはま国際フォーラムでは予期した以上に、市民の関心を集めることができた。

② スタディツアーの実施：11 月末開催のスタディツアーは、治安面から会員限定としたが、会報を通じてのミンダナオ体験の共有で、会員、市民の現地への関心を高める効果があった。

③ ホームページの更新：お知らせやクリニック日誌の更新はほぼ遅滞なくできたが、工事中のサイトポリシーや、要望の多いハンディクラフト製品リストは、次年度持ち越しとなった。

④ 動画報告：3 月～4 月にかけて、里親会員の通訳として現地を訪問したフリージャーナリスト麻生氏による緑の募金事業地タラヒク報告動画は、ホームページからもアクセスいただき、また報告会やフォーラムでも紹介して、写真とは異なるインパクトを与えることができて感謝している。

⑤ 認定 NPO 法人化申請作業：現地パートナーの一つ、CMIP を通じての医療や教育支援が、特定の宗教を利する活動とみなされたため作業は中断。申請を中止するか、対策検討かは次年度持ち越しとした。

2 事業の実績

1) 医療・保健事業

① CMIP 活動対象のビラーン及びティボリ民族の村対象の医療支援（CMIP と協働）

a 巡回診療(7 地区、歯科 186 人・一般診療 97 人・健康保険加入とﾊｰﾌﾞ薬活用指導も同時に実施)

b 患者支援（医療機関受診患者 29 人の医薬品代支援） c 医療責任者ジョジョの給与支援

② ムスリムの村、ﾊﾞﾛﾝｷﾞｽ、ﾄｩﾔﾝ、ﾌﾞﾗｺﾝ、ﾃｨﾅｶﾞｶﾝ計 4 地区の自主財源創出事業モニター担当 PIHS ｽﾀｯﾌ 1 名の給与、交通費、保健ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの子ども（小学生とﾊｲｽｸｰﾙ生計 20 名）の奨学金支援。（PIHS と協働）

③ サランガニ州ボロルサロ村ｱﾄﾓﾛｯｸの簡易水道補修支援（ボロルサロ村役場と協働・担当村議ｽﾇｰﾘｱ）

2) 人材育成事業

① 初等教育支援

a CMIP 支援地域のビラーン等貧困家庭の児童 27 名に年額約 5 千円の奨学金支援。（CMIP と協働）

b CMIP 運営の小学校（分校含む 5 校）児童 640 人の週 3 回の給食費補助 38 万円（CMIP と協働）

c　住民組合立ﾌﾞﾗｸｰﾙ小(約 80 名）の運営と給食支援 53 万円（一部あしなが資金充当）（PFP と協働）

d　SCMSI 校運営支援（3 小学校教師給与相当）と里子 27 名の授業料支援。370 万円（SCMSI と協働）

②　中等教育支援：

ﾊｲｽｸｰﾙ生 25 名に年額 18 千円の奨学金支援(CMIP と協働)。SCMSI ﾊｲｽｸｰﾙ里子 40 名支援（SCMSI と協働）

③　高等教育支援：

a　ジェネラルサントスのカレッジ在学の 13 名に、各年額 8 万円の奨学金支援（CMIP と協働）

b　SCMSI ｶﾚｯｼﾞ里子 13 名支援、SCMSI 校出身外部ｶﾚｯｼﾞ生 7 名に各年額 6 万円の奨学金支援（以上、SCMSI と協働）。SCMSI 校卒、DMSF(ダバオ医大)2 年のアンさん奨学金、年 61 万支援（CMIP 経由）

C　あしなが奨学金としてブラクール出身サルニさんにカレッジ奨学金年 5 万円支給（PFP と協働）

3)　農村開発事業

ビラーンの村ﾎﾞﾙｰﾙ地区の「持続可能な農業組合 BOSDA」の組合員 40 名のうち、20 名対象のゴム、コーヒー苗木の配布、研修実施などからなる小規模アグロフォレストリー実施。H26 年 12 月末のゴム苗木現況：20 世帯 3255 本のうち 113 本が枯死。3142 本が順調に生育。（WE21 ジャパンみどり助成）

4)　環境保全事業

①　ﾚｲｸｾﾌﾞ町ﾗﾑﾀﾞﾗｸﾞ村ﾀﾌﾞﾛ(6 月終了)とﾗﾑｶﾆﾀﾞﾝ(7 月開始)における保護区計 10ha の在来種植林及び生産区計 60ha のゴム、バナナ、ｺｰﾋｰ苗木の植栽、理念技術研修、モデル農場見学（緑の募金助成・PFP と協働））

②　ﾚｲｸｾﾌﾞ町タシマン村における保護区 10ha の在来種植林、生産区 20ha ｺﾞﾑ、果樹苗などの植栽と理念・実技研修。H26 年 10 月開始、H27 年 9 月に終了予定。（三井物産環境基金助成・PFP と協働）

③　ﾚｲｸｾﾌﾞ町タクネル村における保護区 10ha の在来種植林と 20ha のゴム、果樹苗の植栽。（地球環境基金助成。PFP と協働）

5)　女性自立事業

①　伝統工芸品（COWHED 製品及びナバルタビ織）販路拡大活動(フェスタ・バザー、大小 15 回参加)

②　COWHED 及び NPT のハンディクラフト販売担当各 1 名手当支援

③　COWHED 組合員の子ども（女子）2 名へのカレッジ奨学金支給

④　ナバルタビ織継承者育成事業の継続（中堅織手/講師 2 名への謝礼。NTP と協働）

6)　広報啓発事業

①　季刊「ビラーン通信」発行（77-80 号）・各 400 部。78 号以降カラー印刷に移行。

②　ホームページ月 1 回更新(お知らせ欄中心)　③　11/26-12/3 スタディツアー実施（7 名参加）

④　年 4 回の活動報告会（5/2,7/25,10/31,2/1 に開催）　⑤　NGO ﾌｪｽﾀ、ﾊﾞｻﾞｰ参加(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾌｪｽﾀ、よこはま国際ﾌｪｽﾀ、あーすﾌｪｽﾀかながわ他計 15 回)でのパネル展示他広報活動　⑥　2/7 よこはま国際ﾌｫｰﾗﾑ参加

注：CMIP（Catholic Mission to the Indigenous People, inc）COWHED(Cooperative of Women in Health & Development)　PIHS(Pasasambao Integrated Health Service, Inc.)
PFP(Partners for First Peoples Foundation,Inc)　SCMSI(Santa Cruz Mission School Inc.)
BOSDA(Bolul Sustainable Development Association)　NTP(Nabal Tabih Production)

平　成　26　年　度　活　動　計　算　書

（特定非営利活動に係る事業会計）

（平成26年4月1日～平成27年3月31日）　　特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会

Ⅰ　経常収益の部

	科　目	予算額	決算額	差　異	摘　要
経	社員会費	300,000	325,000	▲ 25,000	500円×54口×12ヶ月,
	寄附・医療自立支	660,000	632,000	28,000	1,000円 ×52 口 x 12ヶ月他
常	寄附・教育支援	6,392,000	6,702,895	▲ 310,895	ﾁﾎﾞﾘ支援 392万円,CMIP奨学金・教育全体 178万、医大奨学金53万、ﾌﾞﾗｸｰﾙ・あしなが46万他
	寄附・一般	2,500,000	3,045,888	▲ 545,888	不定期支援賛助会員寄付、定期支援会員円安カンパ他寄附、古切手、物品換金分寄付ほか
収	寄附　計	9,552,000	10,380,783	▲ 828,783	
	助成金	4,310,000	4,289,000	21,000	三井物産環境基金106.4万、緑の募金交付金158.1万、WE21みどり21万、地球環境基金143.4万円
益	ﾊﾝﾃﾞｨｸﾗﾌﾄ事業収	250,000	251,502	▲ 1,502	15イベント参加その他による販売収益繰り入れ
	雑収入	1,000	232	768	預貯金利子他
	経常収益　計	14,413,000	15,246,517	▲ 833,517	

Ⅱ　経常費用の部

	科　目	予算額	決算額	差　異	摘　要
事	医療・衛生事業費	800,000	969,639	▲ 169,639	CMIP医療ｽﾀｯﾌ給与、医薬品支援52.7万、PIHSｽﾀｯﾌ手当、保健ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ子ども奨学金25.3万
					SCMSI歯科検診支援4.7万、水道修理14万（ﾎﾞﾙｰﾙｻﾛ村アトモロック地区）他
	人材育成事業費	6,673,000	7,615,276	▲ 942,276	SCMSI校支援370万、SCMSIｶﾚｯｼﾞ奨学金33万、CMIP奨学金156万、担当手当19万
					CMIP校給食38万、医大生アン奨学金61万　JOFPA基金看護師奨学金2名 26万円
業					ﾌﾞﾗｸｰﾙ・あしなが 43万円,　ｸﾘｽﾏｽ寄附12万　他
	農村開発事業費	391,000	407,063	▲ 16,063	BOSDA組合アグロフォレストリー(WE21助成事業)
	環境保全事業費	4,600,000	4,876,796	▲ 276,796	ﾀｼﾏﾝ(H26/10～三井環境基金）86万、ﾗﾑﾀﾞﾗｸﾞ（緑の募金）197万、ﾀｸﾈﾙ（地球環境基金）204万他
費	女性自立事業費	150,000	249,171	▲ 99,171	COWHEDｽﾀｯﾌ手当と奨学金、ミシン修理支援10.6万円、NTPﾅﾊﾞﾙﾀﾋﾞ織手支援他
	広報啓発事業費	220,000	118,576	101,424	3大ｲﾍﾞﾝﾄ(あーすﾌｪｽﾀ、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾌｪｽﾀ、横浜フェスタ）参加費、ホームページ担当謝礼ほか、
	予備事業費	10,000	0	10,000	
	事業費　計	12,844,000	14,236,521	▲ 1,392,521	
管	人件費	840,000	642,700	197,300	事務局非専従ｽﾀｯﾌ3名
	通信費	270,000	169,867	100,133	NTT、会報発送費
	旅費・交通費	230,000	177,475	52,525	事務局ｽﾀｯﾌ3名交通費、現地訪問車借上げ費他
	印刷・出版費	80,000	85,004	▲ 5,004	会報発行経費（77-80号、78号以降カラー印刷）8.2万円、その他
理	会費・会議費	50,000	49,734	266	YNN年会費（5千円）、日比NGOネット会費(1万円）、JANIC年会費(3万円）他
	手数料	12,000	11,850	150	振り込み手数料他
	消耗品費	60,000	46,258	13,742	ﾌﾟﾘﾝﾀｰｲﾝｸ、印刷用紙、封筒他
	備品・什器購入費	10,000	0	10,000	
費	事務局賃借料	120,000	120,000	0	本部事務局家賃10千円×12ヶ月
	保険料	0	13,740	▲ 13,740	労災保険料、　現地ﾓﾆﾀｰ海外保険料
	管理費　計	1,672,000	1,316,628	355,372	
	経常費用計	14,516,000	15,553,149	▲ 1,037,149	

当期経常収支増減額	▲ 306,632
当期正味財産増減額	▲ 306,632
前期繰越正味財産額	2,558,137
次期繰越正味財産額	2,251,505

貸　借　対　照　表

（特定非営利活動に係る事業会計）

平成27年3月31日現在

特定非営利活動法人の名称	特定非営利活動法人　ビラーンの医療と自立を支える会

科　　目	金　　額	
Ⅰ資産の部		
Ⅰ流動資産		
現金預金	2,531,505	
流動資産合計		2,531,505
2　固定資産		
固定資産合計		0
資産合計		2,531,505
Ⅱ　負債の部		
1　流動負債		
前受け金	280,000	
流動負債合計		280,000
2　固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		280,000
Ⅲ　正味財産の部		
正味財産		2,251,505
（うち基本金）		2,558,137
（当期正味財産増加額）		−306,632
負債及び正味財産合計		2,531,505

財　産　目　録

（特定非営利活動に係る事業会計）

平成27年3月31日現在

特定非営利活動法人の名称	特定非営利活動法人 ビラーンの医療と自立を支える会

科　　目	金　　額	
Ⅰ資産の部		
Ⅰ流動資産		
現金預金		
現金手許有高	63,344	
普通預金 三菱東京UFJ銀行青葉台駅前支店	780,913	
三井住友銀行青葉台支店	830,660	
郵便貯金	839,249	
郵便振替口座	17,339	
流動資産合計		2,531,505
2 固定資産		
固定資産合計		0
資産合計		2,531,505
Ⅱ 負債の部		
1 流動負債		
助成金前受金	280,000	
流動負債合計		280,000
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		280,000
正味財産		2,251,505